

FMC

野菜灌注用殺虫剤

ベジマーク[®] SC

powered by

CYAZYPYR[®]
ACTIVE INGREDIENT



理想の収穫を目指して、
確かな防除で最良のスタートを。



1
あらかじめ作物に有効成分が吸収されるため、しっかりと防除が行き届き、頑強で健全な初期生育が実現、安心の栽培スタートが切れます。

2
短時間で多くの苗を処理できるので効率的です。他の作業にあてる時間的余裕が生まれ、経営規模拡大の機会にもなります。

3
作業が天候に左右されにくく、スケジュール通りに仕事が運べ、安定経営に貢献します。

■適用害虫と使用方法 (が適用拡大部分)

2019年3月現在

作物名	適用害虫名	使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類	400株当たり 25ml	400株当たり 10~20ℓ (1株当たり25~50ml)	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの処理は 1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
きゅうり	ハモグリバエ類						
ピーマン	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類						
なす	コナジラミ類						
	アブラムシ類 アザミウマ類 ネキリムシ類 ハモグリバエ類						
メロン すいか	アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類						

△効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 薬液調整後はできるだけ速やかに使用してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- 過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせさせて使用してください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	ハスモンヨトウ アザミウマ類 アブラムシ類 コナガ アオムシ ヨトウムシ ハイマダラノメイガ ネキリムシ類 ウババ類	400倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、 使用土壌約1.5~4ℓ) 当り0.5ℓ	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの処理は 1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
はくさい	アブラムシ類 コナガ アオムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ カブラハバチ						
ブロッコリー	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類 アザミウマ類						
レタス	オオタバコガ ハモグリバエ類 ハスモンヨトウ アブラムシ類 ヒメフタテンヨコバイ						
カリフラワー	コナガ アオムシ ハスモンヨトウ						
ねぎ	シロイチモジヨトウ アザミウマ類 ハモグリバエ類	2000倍	0.5ℓ/m ²	収穫7日前まで	1回	株元灌注	4回以内 (定植時までの処理は 1回以内、 定植後の処理は 3回以内)
ほうれんそう	ハスモンヨトウ シロオビノメイガ	4000倍	0.2ℓ/m ²	収穫7日前まで	1回	株元灌注	1回
いちご	ハスモンヨトウ アブラムシ類	1000倍	50ml/株	育苗期後半 ~定植当日	1回	灌注	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)

△安全使用上の注意

- 誤飲などのないように注意してください。
- 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないように注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。処理器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、ベリマークSCまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
 (1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト
 {<http://www.irac-online.org>}
 (2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

水で希釈すると残渣が認められることがありますが、品質には影響ありません。

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。